

速報

沖縄県で地すべり発生！



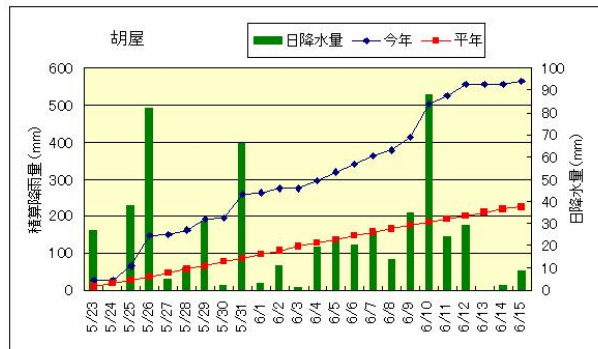
6月10日土曜日16時頃、沖縄県中城村北上原・安里地区で地すべりが発生した。崩落箇所の土砂量は約14万 m^3 。〔沖縄総合事務局〕避難指示48世帯・170人。避難勧告32世帯・105人。〔資料1 沖縄総合事務局より〕

地すべりは幅200m、長さ150m。流動部の先端までは450m。比高は100m。見透し角は 12.4° 。国土交通省砂防部によると、同地内では、平成4年（1992年）8月31日に5.1haに渡る地すべりによって、全壊2戸、半壊1戸の被災例がある。〔資料2 国土地理院より〕

沖縄では記録的な大雨と長雨が続いた。

資料3 沖縄气象台によると、5月23日頃から6月15日にかけて沖縄近海に梅雨前線が停滞することが多く、沖縄本島地方で断続的に雨が降り、右のグラフを見ても分かるように総降水量は、沖縄市胡屋で557ミリと平年（217.9ミリ）の256%、那覇は584ミリと平年（213.2ミリ）の274%に達したとある。旅行者もこの雨には悩まされ、沖縄在住の人々も、これほど雨が降った記憶はないと語っていた。

また、地すべりは角度が1%でも発生する。一概には言えないが、地下水や湧き水が豊富な場所や、造成地などで発生しやすい。沖縄県道路管理課によると、崩落箇所は造成地ではなく、地下水や湧き水も出ない場所という。資料2 国土地理院によると、地質は島尻層群に属する新第3系鮮新統の泥岩の分布域。（社）斜面防災対策技術協会のホームページによれば、島尻層群の泥岩は風化に対する抵抗性が弱く、軟質化、土壌化しやすいとある。今回の地すべり発生原因は長雨と発生当日の大雨が脆い土壌に影響を与えたものと推測する。また、過去の事例からも地すべりが発生しやすい地域といえる。



胡屋〔日降水量・積算降水量〕 沖縄气象台 提供



那覇〔日降水量・積算降水量〕 沖縄气象台 提供

写真提供：内閣府沖縄総合事務局 グラフ提供：沖縄气象台 協力：内閣府沖縄総合事務局、沖縄県道路管理課

参考資料：資料1 沖縄総合事務局「中城村北上原・安里地区土砂災害」H18.6.16

資料2 国土地理院「沖縄県中城村地すべりの地形的特徴について」H18.6.23

資料3 沖縄气象台「平成18年5月23日から6月15日にかけての梅雨前線による沖縄本島地方の長雨と大雨について（速報）」

謝辞：上記の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

今後、更新されることがあります。2006年6月30日現在